

町おこしのサポーターとして

安浦漁業協同組合婦人部
婦人部長 大黒 こず江

1. 地域の概要

安浦町は広島県のほぼ中央に位置し、広島市からは東へ車で54kmの所にあり、静かな深い入り江になった瀬戸内海に面した町である。

2. 漁業の概要

安浦漁協の組合員数は、総数63名で漁業種類別にみると、刺し網28名、カキ養殖24名、一本釣り7名、魚類養殖3名、たこ壺1名である。刺し網では、タイ類、カレイ、ヒラメ、メバル等が獲れている。カキは、安浦町の水産物生産量の9割を占めており、年間約250トンの生産量がある。

3. 研究グループの組織と運営

婦人部の組織は、婦人部員数50数名で組合員の奥さんが主体であるが、漁家以外の人達も加わっており、実際に常時活動しているのは20名程度である。

また、婦人部は、毎年5月頃に総会をかねて、日帰りと一泊旅行を交互に行い、婦人部の親睦を図っている。

4. 実績活動課題選定の動機

安浦町では、現在も海にまつわる伝統行事として柏島神社の大祭などの神事があり、安浦漁協もこれに携わっている。これに併せて、婦人部もこれらの行事に協力している。

また、安浦町の産業祭や、安浦町と友好市町関係にある県北の加計町の産業祭にも婦人部として、水産物の販売や、郷土料理を提供するなど町おこしにも協力している。

5. 実践活動状況及び効果

婦人部の活動内容を、恒例の年間スケジュールで説明すると次の通りである。

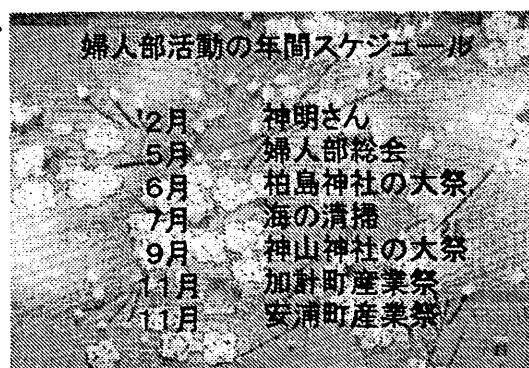
(神明さん)

2月には、神明さんと呼ばれる“とんど”があり、東西の神明組合をつくり旧暦の1月15日に実施している。婦人部として神明さんに携わっている人の食事の世話などを行っている。

(柏島神社の大祭)

6月の吉日には、柏島神社の大祭がある。このお祭りは、交通安全と大漁を願うもので、宮島、大三島とともに瀬戸内海三大管弦祭の一つに数えられている。

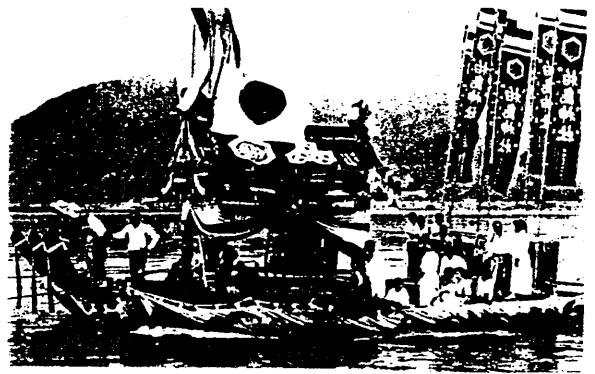
婦人部としては、漁船を運搬船にして柏島に連れていくための切符売りをしたり、食事などの世話をしている。



2月	神明さん
5月	婦人部総会
6月	柏島神社の大祭
7月	海の清掃
9月	神山神社の大祭
11月	加計町産業祭
11月	安浦町産業祭

この食事は、10年位前から、年輩の方から作り方のコツを教わりながら作っている。よごろの日（祭の前日）の昼食、夕食、祭り当日の昼食で約100食を作っている。

料理の方法で特徴的な事をいうと、天ぷら・フライは、卵をビールで溶くことで魚類のうま味を損なうことなく、サクッと揚げるができる。厚焼卵は、マヨネーズを入れることで、時間がたっても軟らかくまた、こくがでる。煮



柏島神社の大祭

しめなどの材料は、祭事なのでできるだけ大きく切っている。このように、年輩の方から教わったことを一つの知恵袋として、若い世代に引き継ぐことが重要ではないかと考えている。

（海の掃除）

7月には海の掃除があり、婦人部にも要請があり協力している。具体的には、三津口湾沿岸部の海岸線を、組合員60名、婦人部40名位で、計100名で清掃している。

（神山神社の秋の大祭）

9月は神山神社の秋の大祭がある。これは、三津口にある神社のお祭りでかい伝馬、御座船に加え、みこしも加わり地域をあげて実施されるお祭りである。婦人部としては、餅米約8斗で紅白のお餅をつき、集まった人々に振る舞っている。地元の人々は、これを楽しみにしており、婦人部としてもこれに応え祭を盛り上げている。

（加計町産業祭）

11月上旬には、加計町の産業祭がある。友好市町関係にある県北の加計町の産業祭にも婦人部として、カキフライなどを作り、安浦町の水産物の販売や、ピーアールにつとめている。殻付きカキの食べ方など、当初は加計町の人達も食べなれていないせいもあって、抵抗があったみたいだが、2年度以降は好んで食べていただいている。

（安浦町産業祭）

11月下旬には安浦町の産業祭があり、毎年第3土日にかけて、町の商工会、農協、漁協等が主体となり行われている。婦人部でもカキ飯を300食作り無料配布している。その他、生カキ、殻付き、カキフライ、カキの天ぷらなども販売している。

以上が婦人部の年間スケジュールであるが、こうして見るとほとんどの活動は、婦人部が主体としてやってきたものではなく、あくまでも縁の下の力持ちのような役割であり、サッカーではないが、婦人部活動は町のサポーター役である。

この他にも、これらの行事をこなしていく中で、県漁婦連の会議を通じて知った、廃油による石鹼づくりや、EM1菌を購入し、米のとぎ汁を活用して家庭排水の浄化など環境問題に自主的に取り組んでいる事例もある。

6. 波及効果

まとめとして、安浦漁協婦人部活動は①伝統行事や、イベントなど従来どおりの行事を今後も引き続き実施していき、郷土料理などを若い世代に引き継がせたいと考えている。②漁家の婦人部として、きれいな海を守るなど今後も環境問題に積極的に取り組んでいく。

7. 今後の課題

婦人部は年々高齢化してきており、活動が難しくなってきたが、将来の夢として、今までの婦人部活動の実績から魚の加工、例えばカキの揚げ物で、カキのかき揚げ（ゴボウ、人参を入れる）、天ぷら（ネギをたっぷり入れたころもを使う）など婦人部で工夫してきた料理を多くの人に食べてもらい魚食普及に努める。そして商工会や、町の協力を得て海産物のテナントを作り、地域の活性化を図ってみたいと考えており、この実現に向けて夢をふくらませている。